

# 天生の森

飛騨の匠の源流を追い求めて

# 止利仏師



天生の森と止利仏師



飛騨市河合町と白川村の境に位置する標高1,289mの天生峠。天生峠とその周辺にはブナの原生林など豊かな自然が広がる。そこには日本の仏像史に燐然と輝く「止利仏師」の生誕伝承が今も語り継がれている。天生の森と止利仏師伝説に飛騨の匠の源流を追い求めて。

天生県立自然公園 カツラ門

天生県立自然公園には、ミズバショウやニッコウキスゲが咲き誇る湿原や、ブナやカツラの大木が林立する原生林など、雄大で豊かな自然が広がっている。また、自然公園内には飛騨に生誕伝説が残る止利仏師にまつわる地名も残っている。

天生県立自然公園の登山道は、天生の森を守る人達により整備されている。登山道の階段資材も用途に合わせて倒木材など現地で調達した素材を使用。また、水の流れを制御するなど森を守る様々な工夫が施されている。

自然にも人も優しい天生の森は、当地に住む人々の手によって大切に守られている。

# 天生県立 自然公園 マップ

Amou Prefectural  
nature Park map



さあ、これからが名代の天生峠と心得たから、  
こつちもその気になって、何しろ暑いので、  
喘ぎながらまざ草鞋の紐を締直した。

さあ、これからが名代の天生峠と心得たから、  
こつちもその気になって、何しろ暑いので、  
喘ぎながらまざ草鞋の紐を締直した。

この風景を描けという声が、虚空の何処からか  
聞こえて来るよう感じた。

『東山魁夷全集第8巻山雲濤声』「制作ノート」より

『高野聖』より

『高野聖』

泉鏡花が明治33年（1900）に『新小説』に発表。語り手の旅僧が敦賀の宿で泊まり合わせた「私」に、かつて天生峠で巡り会った、怪奇な出来事を語って聞かせる。旅僧の旅程では天生峠は地理的に合わないが、白水の滝や、帰雲城伝説を想起させる記述も作中に出てくる。



写真提供：泉鏡花記念館

## 天生ゆかりの文学と芸術

文学や芸術においても、天生を舞台にしたものがいくつか存在します。  
天生の神秘的な風景は多くの人の心を魅了しているのかもしれません。

### 東山魁夷

（1908-1999）

小説家。金沢に生まれる。尾崎紅葉に師事。「夜行巡回」「外科室」で脚光をあびる。明治29年発表の『照葉(てりは)狂言』から幻想的でロマンにみちた独自の世界をさずいた。「高野聖」をはじめ、代表作に「婦系図」「歌行灯」など。芸術院会員。



東山魁夷/「山雲」のためのスケッチ 所蔵：長野県立美術館 東山魁夷館

日本画家。横浜に生まれる。  
結城素明に師事。皇居新宮殿壁画を制作。静謐な風景画により独自の画風をきずく。  
芸術院会員。文化勲章を受賞。  
東山魁夷は唐招提寺御影堂の壁画を描くにあたり日本各地で写生を行なった。  
「上段の間」の「山雲」取材のため、長野、富山、そして日本各地でも多くの山々を見てきた魁夷は、霧につまれた天生峠を目の前にしたとき「この風景を描け」という声が虚空の何処から聞こえたという。

## 止利仏師（鞍作鳥）

とりぶつし

くらつくりのとり

生没年不詳。

飛鳥時代の渡来系の仏師、技術者。名は鳥とも記される。姓は村主。司馬達等の孫で、鞍部多須奈の子。推古天皇14年（606）、飛鳥寺（元興寺）の銅と繡の丈六仏像各1体をつくり、その功により大仁位と近江国坂田郡の水田をあたえられる。この水田をもって坂田寺（金剛寺）を建立する。

飛鳥大仏や法隆寺金堂釈迦三尊像をつくった飛鳥時代を代表する仏師で、日本史上最初に名前が残る仏師でもある。飛騨市河合には全国で唯一、止利仏師の生誕伝説が残っている。

### 「トリ」とは？

鞍をはじめとする馬具は、権威を象徴するものとして、木工、金工、繡工など、当時の技術の粋を集めた製品でした。馬具づくりに長けた、つまり多岐にわたる最新技術と知識を持った鞍作氏が、造寺造仏の要請に応えるべく、鞍（馬具）つくりから仏（寺・仏像）つくりへと、時代の変遷とともにその活躍の場を移していったのでしょう。

### 「止利派」「止利様式」とは？

法隆寺とその周辺には、金堂釈迦三尊像と形・作風や鋳造の技法がよく似た金銅仏が伝わっています。これらは止利あるいはその周辺の作者によって同じ工房で製作されたとみられ、「止利派」の仏像と呼ばれています。止利仏師彫刻の作品スタイルは、「止利様式」と呼ばれています。着衣の衣文が左右対称、面長の顔立ち、杏仁様の眼（アーモンドアイ）、仰月様（口の左右が上向き）の唇などが特徴として挙げられます。

# 止利仏師生誕にまつわる 2つの伝説

止利仏師の生誕については諸説あります。ここで紹介するのは、語り継がれる2つの伝説。どちらも神秘的で太古の浪漫を感じるものです。

## 天生伝説



早川和子／鞍作部多須奈 所蔵：飛騨の匠学会

良材を求めて飛騨に  
入った鞍作多須奈が  
木を切り倒そうとし  
たところ、木から血が  
噴き出すなど怪奇な  
現象が続いた。そこで  
多須奈は都に戻り、  
聖徳太子に相談した  
ところ、太子から自作  
像を受けられた。

飛騨に戻った多須奈は  
像を天生谷に安置  
すると、それ以後は何も  
異変が起きなかつた  
という。



むかし、小鳥川に沿  
むらまつりが行われ村人  
が賑やかに騒ぐ中、  
ひとり祭の輪には  
入らず、川辺にたた  
ずむ娘がいた。川面に  
は満月が美しく映し  
出されていました。  
娘は月影が映った川の  
水をすくって飲み干し  
たところ、不思議なこ  
とに水を飲んだ娘は  
身ごもり、生まれた  
子は首が鳥に似てい  
たことからトリ（止利）  
呼ばれたという。



## 月ヶ瀬伝説



所蔵：醫王山 飛騨国分寺



## 『和漢三才図絵』

正徳2年（1712）。江戸時代中期に編纂された全105巻にも及ぶ百科事典。天文、人倫から草木まで96類に分かって、和漢の事物を収容し、平易な漢文で各事物に簡明な説明と図を入れている。第73巻「大和」の豊浦寺の項目では、止利仏師の事績が記され、その中で止利が飛騨の生まれとある。止利仏師が飛騨の生まれであるとする最初の記述とされる。



## 常蓮寺聖徳太子像縁起

寛政5年（1793）。常蓮寺（飛騨市神岡町）に伝わる聖徳太子像の由来を記した縁起。多須奈が聖徳太子より自作の像を得て、飛騨の天生に入り良材を求めた。そこで神女と結ばれ生まれたのが止利仏師とある。江戸時代の本像の変遷にまつわる言い伝えが毎年7月24日に開催される「太子踊り」として今も伝えられている。



## 飛騨匠木鶴大明神像及び版木

寛政7年（1795）。飛騨国分寺に伝わる木鶴大明神像の由来を記す。長岡京造営に携わった韓志和を勧請したのが始まり。ある時、国分寺の住職の夢に現れた韓志和は、自分は飛騨国吉城郡天生村の生まれであると告げたという。この縁起には止利仏師の名は出てこないが、飛騨の匠と天生の接点を記す点で重要である。

# Historic site of Toribusshi

## 河合町 天生

鞍部多須奈は天生谷に聖徳太子像を安置したとされる。飛騨市河合町天生地区には、かつて太子像が祀られていたことを記す石碑がある。石碑から斜面を少し登ったところには、地区の人たちによって祠が建てられている。また、天生峠を登る国道を途中で谷側へ少し下りると旧三ノ瀬集落の跡がある。もとは「産ノ瀬」であったようで、天生の山中で子どもを産んだという伝説も荒唐無稽な作り話とも思えない。



聖徳太子堂跡に建てられた祠



聖徳太子堂跡石碑



国道360号から旧三ノ瀬  
集落に向かう山道

至  
白川村



## 天生湿原



匠屋敷

## 天生湿原

伝説によると、幼い止利とその母は人目を避け、現在の天生湿原（匠屋敷）に移り住んだ。止利は不思議な力をもって田を耕したという。現に「田形」という名が残る。さらに、この田で収穫した稲の粉糠（もみがら）が積もったのが粉糠山であるという。粉糠山を貢ぐ飛騨トンネルの掘削工事が困難を極めた一因は、粉糠山がその名の通りの軟弱地盤によるという事実も興味深い。湿原には島のような陸地があり、止利親子はここで暮らしたという。この陸地には「匠屋敷」と呼ばれるお堂が建てられ、毎年10月には匠まつりが行われている。



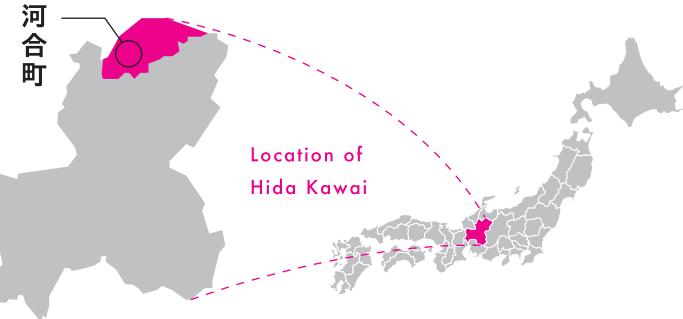
飛騨匠碑



月ヶ瀬地区にある看板



月ヶ瀬



河合町

Location of  
Hida Kawai

至  
飛騨市河合町角川



止利仏師誕伝説が伝わる飛騨市河合町には、伝説に関する史跡や伝説の名残を感じさせる地名が残っている。これらの史跡は、伝承とともに地域の人たちの手によって大切に守り伝えられている。

## 河合町 月ヶ瀬

「月ヶ瀬」の名前の由来は、月が映った川面の水を飲んで子を宿したという伝説による。月ヶ瀬橋から少し歩くと「飛騨匠」という文字が刻まれた石碑が建っている。この地では、飛騨の匠といえば止利仏師のこととされ、「飛騨の匠発祥の地 月ヶ瀬」の看板が掲げられている。月ヶ瀬橋かかる小鳥川には、「多須奈淵」「忍岩」「神女の泉」と呼ばれる場所もある。

# 止利仏師伝説の里を訪ねて

悠久の時を超えて語り継がれる匠の祖

「止利仏師の名は全国に知られていますが、生誕に関する伝承は、ここにしかないと思います。私が調べた限り、ほかには見つかりませんでした。私たちは子どもの頃から伝説を聞いて育ちましたし、地元には伝説ゆかりの地名などもたくさんあって、知れば知るほど、ここが止利仏師のふるさとだと確信が湧いてきます」と話すのは、飛騨市河合町元田に住む安達康重さん。平成のはじめ頃、「かわい夢らんど塾」という地域おこし活動をきっかけに止利仏師のことを調べ始め、現在は郷土史家として活躍している。

天生という地名自体、天から授かって生まれた子に由来するとされ、天生峠の駐車場から30分ほど山道を登ったところに広がる湿原は、昔、止利を身ごもった忍が村を離れ、ひとりで産んで育てた場所と言われている。地元の仲間と

一緒に、20年以上前から湿原のパトロールを行っている、天生高層湿原監視員代表の井之上豊秋さんは、「天生湿原は忍と止利親子の田んぼであったと言われ、田形とも呼ばれますし、家が建っていたと伝わるところは、今も一段高い地形が残っていて、匠屋敷とか田形屋敷と呼ばれています」と話す。

屋敷跡には止利仏師を顕彰する匠堂が建っています。その前で、毎年10月の第2日曜日に匠祭りを行うのが恒例だ。周辺の地域の人々が山を登ってきて太鼓や獅子舞などを披露される。「いつからここで祭りをやっているのかはわかりませんが、少なくとも百年以上の歴史があるはず」と井之上さん。安達さんも井之上さんも、ともに匠祭り奉賛会のメンバーで、コロナ禍でもここへ来て神事だけは行つた。

考えられますが、多須奈は異国から育つたと思われるとは1400年以上も前で、当時の記録や証拠はありません。また、伝説には不思議で信じ難い内容も多いです。それでも、この土地の人たちが代々語り継いできたことには、きっと何か真実があると思います」と語る。

「止利の父親は鞍部多須奈と考えられます。多須奈は異国から村娘である忍の懐妊を月ヶ瀬伝説のよう話をしたのではないでしょう。だから離れた存在だったでしょう。だからうか。人里離れた山中で母子だけで暮したのは、ひょっとすると子どもがいじめられないようにという配慮が



天生高層湿原監視員代表 / 井之上豊秋さん



天生湿原



天生峠石銘板



第四十八番靈場

あつたのかもしません。成長した止利は、都に上つて、多須奈のもと、鞍作の一族として名を成しましたが、忍から産まれて17歳まではこの天生で育つたのですから、止利は飛騨の人だったと、私は信じています」。

河合町天生に聖徳太子堂跡」と刻まれた石碑が立つ。碑は、当初より少し位置が移っており、現在は、井之上さんの家のすぐ近くに立っている。「詳しいことは知らないのですが、昔、祖父が、よくこの碑のことを自慢していました。祖父をはじめ、地元の人たちも、いくらか

寄付をしたそうです」と井之上さん。

周辺は、大樹も茂る丘のような地形で、山へのルートに近く、遙か昔には、多須奈が滞在していたのかもしれない。昔の太子堂の姿は謎だが、太子堂跡と言われる場所には地元の人たちが建てた小さなお堂があり、中には聖徳太子の絵が納められている。井之上さんは、「今でも遠方からお参りに来られる方がみえるんです。だから、お世話して伝えていかないと」と微笑む。

## ふるさとの宝物を未来へ

天生湿原も、これから紅葉までの季節は行楽シーズン。井之上さんは、やはりパトロール活動も忙しい。時代とあまり変わっていない風景

そつと見せてもらうつもりで歩いて、環境を次代に残せるように考え、行動していただきたいです」と、井之上さんは呼びかけた。

「月刊さるぽ2022年9月号『月刊さるぽ2022年9月号』より抜粋

## 止利は飛騨人、伝承から確信へ

安達さんは、「止利仏師が飛騨で育つたと思われるとは1400年

以上も前で、当時の記録や証拠はありません。また、伝説には不思議で信じ難い内容も多いです。それでも、

この土地の人たちが代々語り継いできたことには、きっと何か真実があると思います」と語る。

「止利の父親は鞍部多須奈と

育つたと思われるとは1400年以上も前で、当時の記録や証拠はありません。また、伝説には不思議で信じ難い内容も多いです。それでも、

この土地の人たちが代々語り継いできたことには、きっと何か真実があると思います」と語る。

「止利の父親は鞍部多須奈と

育つたと思われるとは1400年以上も前で、当時の記録や証拠はありません。また、伝説には不思議で信じ難い内容も多いです。それでも、

この土地の人たちが代々語り継いできたことには、きっと何か真実があると思います」と語る。



郷土史家 安達康重さん



匠太鼓



飛騨匠堂



### 飛鳥大仏(釈迦如來坐像)

重要文化財 銅像 鎏金

高さ275cmの丈六坐像。度重なる火災に遭い、ほとんどが後世の修復によるものとされてきたが、近年の調査で顔と右手の一部は造立当初のままで、体も火災で溶けた銅を再利用して使われた可能性が高いことが判っている。大仏を安置する本堂も創建時の金堂の位置と同じであることが発掘調査により明らかとなった。1400年の時を隔ても、推古天皇や聖徳太子、蘇我馬子と同じ目線で拝むことができる。



### 飛鳥寺(安居院)

奈良県高市郡明日香村大字飛鳥

推古4年(596)、仏教を保護した蘇我馬子の発願により伽藍を配した日本初の本格的寺院として完成。平城遷都に伴い平城京に元興寺が建立されてからは「本元興寺」と呼ばれた。安居院はこの寺院の塔頭寺院であった。「法興寺」「元興寺」とも。



The virtuosity of a TORIBUSSHII

## 止利仏師の妙技が伝わる 飛鳥大仏

7世紀前半に栄えたと言われる飛鳥文化は日本最初の仏教文化と言われています。飛鳥文化の代表的な存在である飛鳥大仏は日本最古の仏像として飛鳥寺に鎮座されています。この飛鳥大仏を作ったのが止利仏師と伝えられており、止利仏師は、日本で初めて仏像を作った人物として記録に残っています。

### 記録に残されている 止利仏師の功績

『日本書紀』によると、本尊として完成した飛鳥大仏をいざ安置しようとしたところ、金堂の戸よりも像高が高く入らず戸を壊して入れようとなつた。しかし、止利仏師によって戸を壊さず堂内に安置できたという。

十四年夏四月し西羽主辰銅鑄丈六佛  
像並造竟是日也丈六銅像坐於元興寺  
金堂時佛像高於金堂戸以不得納堂  
於是諸子人等識曰破堂户而納之然  
鞍作馬之秀工不壞戸得入堂即口設

日本書紀

### 日本書紀

『日本書紀』は、元正天皇の養老4年(720)に完成したとされる日本最初の勅撰国史(天皇の命で編修)。

先にも説明した、飛鳥大仏の堂内への安置の様子は、日本画家、安田鞆彦により日本画としても描かれている。

### 日本画にもなつた 止利仏師の逸話

安田鞆彦 (1884-1978)  
日本画家、能書家。東京美術学校教授。東京府出身。芸術院会員。文化勲章受章。文化功労者。歴史画の大家で、焼損した法隆寺金堂壁画の模写にも携わった。



安田鞆彦 / 飛鳥大仏と止利仏師  
所蔵:滋賀県立美術館

## 法隆寺金堂釈迦三尊像

国宝 銅像 鍍金

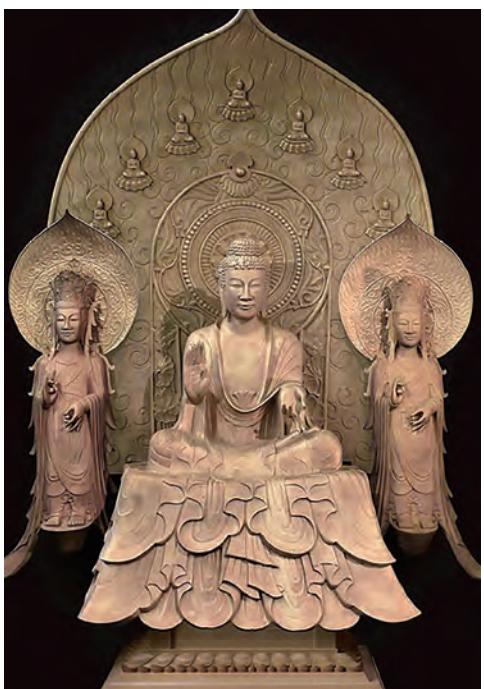
法隆寺金堂に安置された止利仏師作の仏像。中尊と左右の脇侍の三尊からなる。日本仏像史の初頭を飾る名作として知られる。面長の顔、杏仁形の目（アーモンドアイ）などの特徴がある。後世の日本の仏像とは異なる様式が示されている。

Masterpieces of TORIBUSSHII

## 日本の仏教文化の原点を飾る 止利仏師の名作法隆寺金堂釈迦三尊像



撮影：飛鳥園



鋳造されて表面加工をする前の釈迦三尊像



法隆寺金堂釈迦三尊像（クローン文化財）  
東京藝術大学COI拠点制作」

## 法隆寺金堂釈迦三尊像再現事業

東京藝術大学COI拠点は、法隆寺と文化庁の許可を得て、法隆寺金堂釈迦三尊像再現事業に取り組んだ。本像を計測・解析したデータをもとに3Dプリンターで原型を作成し、そこに富山県の高岡銅器と井波彫刻の伝統工芸技術が加わり、同素材・同質感のクローン文化財として再現された。



東京藝大による3D計測



鋳造された大光背の仕上げ作業

写真提供:東京藝術大学COI拠点

奈良県生駒郡斑鳩町法隆寺山内  
推古15年（607）に聖德太子が建立。現存する世界最古の木造建築でほとんどの建物が国宝。また、釈迦三尊像や玉虫厨子などの国宝のほか、絵画遺品などの寺宝も多い。平成5年（1993）、「法隆寺地域の仏教建造物」として世界文化遺産に登録。

## 法隆寺

### 法隆寺金堂釈迦三尊像光背銘

釈迦三尊像の光背裏面に刻された196文字の銘文。末尾には「使司馬鞍首止利佛師造」（この像は鞍作止利仏師に造らせた）である。この時代に銘文に作者の名が記されることはなく、止利仏師が記名に値する存在と考えられていたことが分かる。



撮影：飛鳥園

## 鞍作多須奈

飛騨に来たとされる止利の父

## 善信尼

日本最初の尼で止利の叔母

## 鞍作福利

止利の子ともいわれる通訳

父司馬達等とともに仏教を信仰し自らも出家して「徳齊法師」と呼ばれた。坂田寺を建立し、丈六の薬師三尊像を造った。

司馬達等の娘。渡来僧について出家し、日本で最初の尼僧とされる。百済にわたって戒律を学び、帰国後は桜井寺（豊浦寺）に住んだ。俗名を嶋という。

止利仮師の子ともいわれるが定かではない。推古天皇15年（607）に派遣された遣隋使に小野妹子の通事（通訳）として同行した。その後帰国しなかった

# 止利仮師をとりまく人びと



聖德太子

止利を仮師として活躍させた

推古天皇の摂政として蘇我馬子とともに内政・外交に尽力した。日本の仏教の礎を築いた人物。



司馬達等

鞍作氏の祖で止利の祖父

止利仮師の子ともいわれるが定かではない。推古天皇15年（607）に派遣された遣隋使に小野妹子の通事（通訳）として同行した。その後帰国しなかった



推古天皇

止利が活躍した時代の天皇

聖德太子の叔母で、歴代最初の女性天皇。在位中に「冠位十二階」「憲法十七条」の制定、遣隋使の派遣など、政治・経済両面にわたりて改革を推進した。



蘇我馬子

止利ゆかりの飛鳥寺を建立

4代の天皇に仕えて政治を主導し、蘇我氏の全盛期を築いた。飛鳥寺の造営など、仏教興隆の方針を進めた。蘇我氏と鞍作氏は密接な関係にあったと考えられている。

# 主なできごと

● 繼体16年（522）

司馬達等、坂田原に草堂をつくり本尊を安置する。

● 宣化3年（538）

百済の聖明王より仏像・経論が贈られる。仏教伝来（『元興寺縁起』）。552年説（『日本書紀』）もあり。

● 敏達3年（574）

聖德太子（厩戸皇子）、誕生。

● 敏達13年（584）

百済から請來した仏像を邸宅（向原寺）に安置。

高麗僧惠便のもとで11歳の嶋を預け出家（善信尼）させる。

● 用明2年（587）

鞍作多須奈、坂田寺を建て丈六仏像を造立。

● 崇峻1年（588）

蘇我馬子、飛鳥寺の建立開始。善信尼ら3人、正式受戒のため百済へ渡る。

● 崇峻3年（590）

多須奈、出家して徳齊法師と称す。

● 推古1年（593）

聖德太子、皇太子となる。

● 推古4年（596）

飛鳥寺の主要伽藍が完成。

● 推古13年（605）

止利仮師、推古天皇より飛鳥寺の銅と繡の丈六仏の制作を命じられる。

● 推古15年（607）

法隆寺（斑鳩寺）を建立。

● 推古17年（609）

飛鳥大仏（釈迦如来像）が完成（『元興寺縁起』）。606年に完成説（『日本書紀』）もあり。

● 推古30年（522）

聖德太子、斑鳩宮で没する。

● 推古31年（623）

止利、法隆寺金堂釈迦三尊像を造立。

## なぜ「仏作」ではなく「鞍作」なの？

鞍をはじめとする馬具は、権威を象徴するものとして、木工、金工、繡工など、当時の技術の粋を集めた製品でした。馬具づくりに長けた、つまり多岐にわたる最新技術と知識を持った鞍作氏が、造寺造仏の要請に応えるべく、鞍（馬具）つくりから仮（寺・仏像）つくりへと、時代の変遷とともにその活躍の場を移していきました。



### 鞍作寺(鞍作廃寺跡)

大阪府大阪市平野区加美鞍作  
鞍作氏が住んだ場所とされ、  
その名残が現在も地名として  
残る。現在の鞍作寺の地は、  
善信尼が開基したと伝わる  
鞍作廃寺がもとあった場所  
とされ、境内からは礎石や  
瓦が出土している。



### 向原寺境内に残る 豊浦宮の遺構

向原寺本堂横にある覆屋  
中には、豊浦宮から豊浦寺  
への変遷を物語る遺構が  
保存されている。向原寺  
境内で行なわれた調査で  
豊浦寺の基壇が、さらにその  
下層からは豊浦宮の石敷き  
が見つかった。向原寺の一帯  
には、これら日本の歴史を  
彩る舞台の遺構が重なるよ  
うにして残っている。

### 無動寺

兵庫県神戸市北区山田町福地  
無動寺の縁起を記す宝暦  
2年（1752）の棟札記に  
よれば、聖徳太子が物部守  
屋討伐の戦勝祈願のために、  
止利仏師に命じて、丈六大  
日如来像及び諸像を造らせ  
たのが始まりとする。



Historic site of TORIBUSSHII

## 止利仏師ゆかりの史跡

奈良県の飛鳥をはじめとして、  
止利仏師が活躍した近畿地方には  
止利や鞍作氏ゆかりの史跡が残っています。



### 坂田寺跡

奈良県高市郡明日香村阪田  
鞍作氏の氏寺。司馬達等が  
草堂を結んだことに始まる。  
用明天皇の病気平癒のため  
鞍作多須奈が造ったとも、  
止利仏師が飛鳥大仏造仮の  
功で賜った水田をもって造っ  
たともいわれる尼寺。  
金剛寺とも。

### 向原寺 (豊浦宮跡・豊浦寺跡)

奈良県高市郡明日香村豊浦  
欽明13年（552）、蘇我稻  
目が百濟から贈られた仏像  
と經典をこの地に祀った。  
崇峻天皇5年（592）、  
推古天皇はこの地で即位し  
豊浦宮とした。その後、蘇我  
馬子はこの地に豊浦寺を建  
立し、善信尼（止利仏師の  
叔母）を住まわせた。江戸  
時代に向原寺と改められ  
今に至る。

### 甘櫻丘

奈良県高市郡明日香村豊浦  
飛鳥川沿いにある標高  
148mの低丘陵。古くは  
『日本書紀』に記述がみられ、  
麓には蘇我蝦夷・入鹿親子が  
邸宅を構えていた。眼下に  
は飛鳥寺やのどかな田園や  
集落がひろがり、大和三山や  
藤原京跡も望むことができる。

# Mechanism / 飛驒の匠が主人公のSF作品!?

## 見どころは数々の「機関(からくり)」



かにかくに 物は思はじ  
飛驒人の 打つ墨縄の ただ一道に  
『万葉集』

飛驒の工匠も恨めしき隔てかな  
御堂造れる飛驒の工匠ども、  
爵賜はせ、さまざまの喜びどもしたり  
『源氏物語』

飛驒の工匠の夫は、飛驒國の人なり。  
位は大夫の大工、名は檜前杉光、  
八省農樂院の本図を伝へ  
『新猿樂記』

飛驒大工上京して公役を務むるもあり、  
國を巡るもあり  
『政談』

石川雅望作の読本で、画は  
葛飾北斎による。六巻六冊。  
文化5年(1808)刊。  
飛驒の名工猪名部墨縄が  
弟子の檜前松光とともに  
蓬莱山の神仙から授けられた  
工技をもって数々の問題を  
解決していく。

登場人物の名前や話題は、  
『万葉集』『新猿樂記』『今昔  
物語集』など飛驒匠に関する  
ものから採用されている。  
1912年にはF・V・ディ  
キンズによって本書の英訳本が  
イギリスで発刊された。

## 飛驒匠

飛驒匠とは、もともとは飛驒一国を対象とした特例的な律令の条文に規定された工匠のことであった。律令体制の崩壊とともに、制度として従事された飛驒匠は姿を消す。しかし、飛驒匠の確かな技術と堅実な働きぶりは、『今昔物語集』や『栄花物語』など文学や記録、各地に伝わる建造物の由来の中で語り継がれ、いつしか飛驒匠は木工技術者の代名詞となつた。現在、飛驒には町並みや建造物、祭屋台、そして家具など、匠の技術の高さを窺い知ることができるものが数多く残っている。



江戸時代の大工(番匠)



## 養老賦役令斐陀国条

税を免除する代わりに匠丁(木工技術者)を都へ派遣する条文が奈良時代に規定された。この時代の飛驒の匠の活躍ぶりがうかがえる。

養老賦役令には、飛驒国のみを対象とした条文がある。庸・調の税を免ずる代わりに飛驒国からは匠丁を差し出すよう規定されている。いわゆる飛驒工(匠)制度である。発掘調査により飛驒には多くの古代寺院が存在していたことが明らかとなつてゐるが、その建物構造は都との類似も指摘されている。飛驒工制度を通じ、都と飛驒との間に技術の交流と促進があつた。

## 脈々と語り継がれる「飛驒の匠」の高い技術力

## 飛驒の匠の技術

税を免除する代わりに匠丁(木工技術者)を都へ派遣する条文が奈良時代に規定された。この時代の飛驒の匠の活躍ぶりがうかがえる。

# 奈良県にもある飛驒の地名

都の造営のために飛驒の匠が居住した名残とされるのが、奈良県橿原市にある「飛驒町」と「上飛驒町」という地名である。飛驒の匠や飛驒地域と関係があるのかは定かではないものの、不思議なことに奈良県には他にも飛驒を連想させる地名がある。

## 橿原市飛驒町・上飛驒町

藤原京造営のために飛驒の匠たちが住んでいたと伝えられている。出身地の国名を居住地名に使った名残の一つ。



藤原宮跡より飛驒町方面を望む。



飛驒町標識



上飛驒町標識

藤原京造営が終わってからの天平勝宝8年（756）の文書にはすでに「飛驒坂所」の文字があり、当時すでに「飛驒」の地名が定着していた。上飛驒町から朱雀大路跡が確認されている。

## 奈良市月ヶ瀬

現在は奈良市東部にある地域

旧月ヶ瀬村は、昭和43年（1968）に月瀬（つきせ）村から月ヶ瀬村に改称。平成17年（2005）、奈良市に編入。木津川の上流名張川（五月川）の峡谷部を占める月ヶ瀬尾山とその周辺に広がる月ヶ瀬梅林（月ヶ瀬梅渓）は、高山ダムによるダム湖「月ヶ瀬湖」と1万本の梅の調和が美しい関西屈指の梅の名所。大正11年（1922）に国の指定名勝。

月ヶ瀬梅渓

写真提供：奈良市月ヶ瀬梅の資料館

## 奈良の「天生」

野村伝四の『南大和方言語彙』（1936）によれば、奈良県吉野地方では、杉の梢（木に先端）なっている実のことを「天生」を書いて（てんなり）と呼んでいました（『日本方言辞典』）。

ははうえさま お元気ですか

ゆうべ 杉のこすえで 明るく光る星ひとつ見つけました

（JASRAC出 2205055-201）

懐かしのアニメ「一休さん」のエンディング曲冒頭の一節。杉の梢「天生」という歌詞や、どこか月ヶ瀬伝説を想起させる内容。止利仏師も遠く離れた母や飛驒のことを想いながら、明るく光る星を眺めて過ごした夜もあったのでしょうか。

# 北葛城郡河合町

奈良盆地の西部に位置し、総面積約8.23平方キロメートル、人口約1万7千人の町。平成14年（2002）に、当時の河合村（現飛驒市河合町）と友好都市提携を結ぶ。



河合町役場正門と“すな丸”



広報かわい2003.2月号

写真提供：河合町

河合町のイメージキャラクター“すな丸”

が立つ、役場正門とその奥にある庭園は、かつて「豆山荘」と呼ばれた邸宅と庭園の一部。

奈良県河合町の河合村（当時）の広報誌「広報かわい」では、調印式の様子とともに、岐阜県の交流事業についても掲載。

河合町のイメージキャラクター“すな丸”が立つ、役場正門とその奥にある庭園は、かつて「豆山荘」と呼ばれた邸宅と庭園の一部。



## 県指定重要無形民俗文化財 富士神社 河合町稻越（毎年5月3日）

小雀獅子は、安土桃山時代の天正13（1585）年、稻越地区東側の湯峰峠にあった小鷹利城落城の際、この地に身を隠した家臣たちが、富士神社に奉納したのが始まりと伝えられている。激しさの中にも優雅で細やかな動きが受け継がれ、若者達が高度な技術を伝承している。

POINT

### 山中和紙の歴史

飛騨の製紙は、中世鎌倉時代初期から盛んになり、室町時代・応永12年頃には、貴族間での贈り物となっていた。飛騨高山の領主・金森長近は、製紙を奨励し、角川や稻越などで、丈長・端不切など大変高級な紙を漉いていたという。



山中和紙は、飛騨市河合町で生産されている和紙です。その特徴は、冬に雪上で楮（コウゾ）をさらし自然漂白を行うことです。身を切るような冷たい水、身の凍るような冷たい雪の中でこそ、山中和紙（紙漉き）は良い紙ができるとされ、今も昔ながらの伝統技術が伝承されている。

### 山中和紙



## 文化が薫るまち河合町 止利仏師伝説のふるさとはこんなところ

岐阜県北部に位置する飛騨市河合町は、原生林が息づく天生県立自然公園をはじめ、緑豊かな自然に恵まれた自然の宝庫。ここで暮らす人々は、今も伝統文化を大切に継承しています。

HIDA  
KAWAI

河合町に伝わる地歌舞伎の歴史は古く、文政6年（1809年）にその記録が残されている。幾多の変遷を得て、その伝統を守り後世につたえるため平成19年2月に「河合町歌舞伎保存会」設立。平成29年には「飛騨市河合町歌舞伎保存会」に改名し、岐阜県内をはじめ地域公演で披露され、「河合町歌舞伎保存会」は地域文化を守り続けている。

## 天生県立自然公園へのアクセス

JR高山本線「角川」から車で約40分。  
「飛騨古川駅」から車で約60分。

例年11月上旬から5月下旬まで国道360号（天生峠）は冬期通行止めとなります。

また、夏期でも気象状況によって通行止めになることがあります。最新道路情報をご確認ください。

道の最新情報を  
チェック



岐阜県 道の情報

[douro.pref.gifu.lg.jp](http://douro.pref.gifu.lg.jp)

## 天生県立自然公園の情報



魅力いっぱいの  
飛騨を旅しよう！

飛騨の旅  
(飛騨市公式観光サイト)



北ひだの森を歩こう

岐阜県の北飛騨の  
森歩きに関する情報

本書の著作権は飛騨市に帰属します。掲載写真等の中には著作権者より許諾を得て使用しているものがあります。このため、飛騨市からの許可無く、掲載内容の一部及び全てを複製、転載または配布、印刷など、第三者の利用に供することを禁止します。

本書の作成にあたり、飛騨の匠学会、東京藝術大学COI拠点、(株)中広月刊さるばの皆様には貴重な写真をお借りしました。取材等でご協力いただきました関係者・関係機関の皆様に深く感謝の意を表します。

## お問い合わせ

飛騨市河合振興事務所

〒509-4301 岐阜県飛騨市河合町角川223番地1 TEL 0577-65-2221

発行 / 飛騨市 協力 / 飛騨・世界生活文化センター 指定管理者 飛騨コンソーシアム